

2 広報・広聴

問14 広報活動の周知度

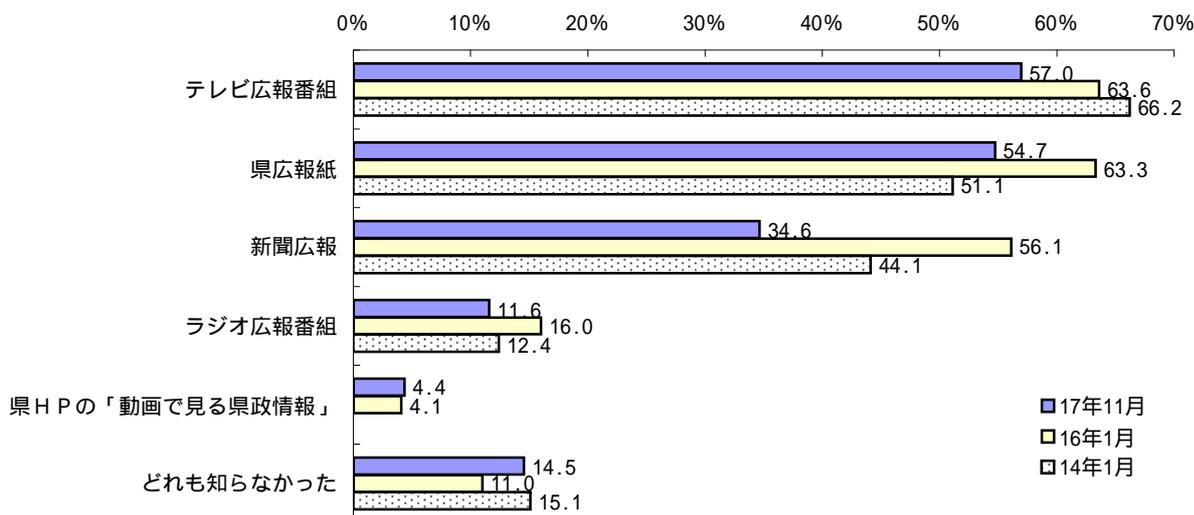
県では、次のような広報を行っていますが、あなたが知っているものをいくつかも選んで番号を で囲んでください。

(複数回答) (%)

1	テレビ広報番組	57.0
	県政！とれたて日曜日！！（南海放送）	
	県政なんでも情報局（テレビ愛媛）	
2	県広報紙	54.7
	県民だより「さわやか愛媛」 （新聞折り込みによる広報紙）	
	情報誌「Ehmail」	
3	ラジオ広報番組	11.6
	県政FM情報（FM愛媛）	
	県政広場（FM愛媛）	
	週刊さわやか愛媛（南海放送ラジオ）	
4	県ホームページの「動画で見る県政情報」	4.4
5	新聞広報	34.6
6	どれも知らなかった	14.5

県が行っている広報活動のうち、知っているものを聞いたところ、「テレビ広報番組」（57.0%）、「県広報紙」（54.7%）や「新聞広報」（34.6%）と答えた人の割合が特に高く、以下「ラジオ広報番組」（11.6%）「県HPの動画情報」（4.4%）の順となっている。

また、前回調査と比べ、県HP（0.3ポイント増加）以外の広報媒体の周知度は低下している。

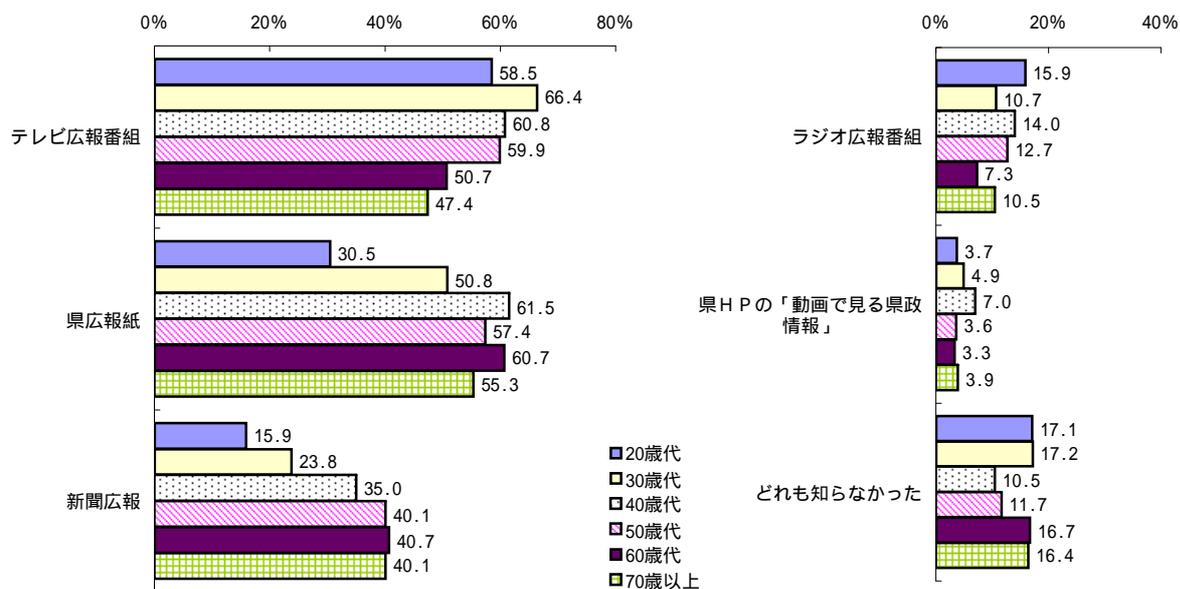


（県HPの「動画で見る県政情報」は16年調査から）

【年齢別】

年齢別にみると、「テレビ広報番組」は30歳代で、「県広報誌」は40歳代で周知度が最も高くなっている。一方、「テレビ広報番組」は60歳代及び70歳以上で、「県広報紙」は20歳代で、「新聞広報」は20歳代及び30歳代で周知度が低い。

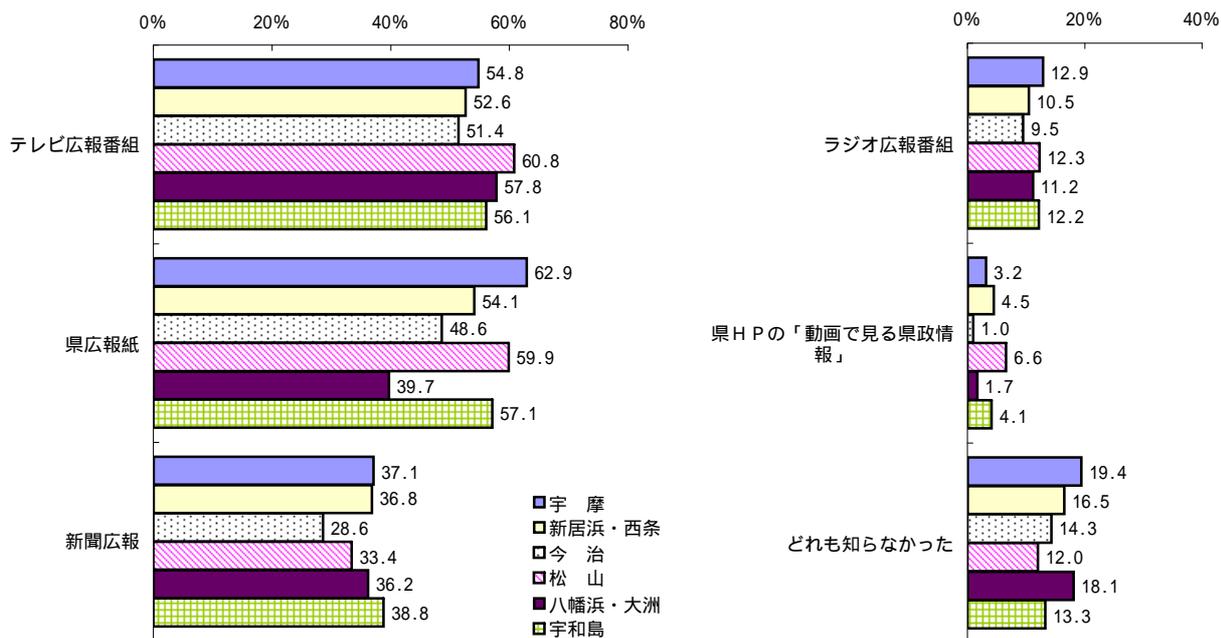
なお、「どれも知らなかった」と答えた人の割合は、20歳代、30歳代で高くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「テレビ広報番組」は松山圏域で、「県広報誌」及び「ラジオ広報番組」は宇摩圏域で、「新聞広報」は宇和島圏域で周知度が最も高くなっている。

なお、「テレビ広報番組」と答えた人の割合は、今治圏域（51.4%）で他の圏域に比べ低くなっている。



問15 テレビ広報番組の視聴経験

ところで、次にあげる県のテレビ広報番組で、あなたがご覧になったことがあるものをいくつか選んで番号を で囲んでください。

(複数回答) (%)

- | | | |
|---|---|------|
| 1 | 県政！とれたて日曜日！！（南海放送）
毎週日曜日 17:15～17:20 | 40.8 |
| 2 | 県政なんでも情報局（テレビ愛媛）
毎週木曜日 18:55～19:00 | 30.7 |

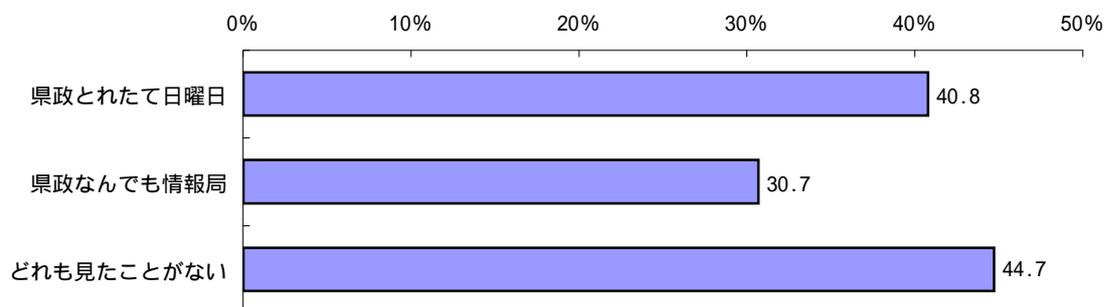
- ↓
- | | | |
|---|------------|------|
| 3 | どれも見たことがない | 44.7 |
|---|------------|------|

どれも見たことがない主な理由を次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

(N = 376) (%)

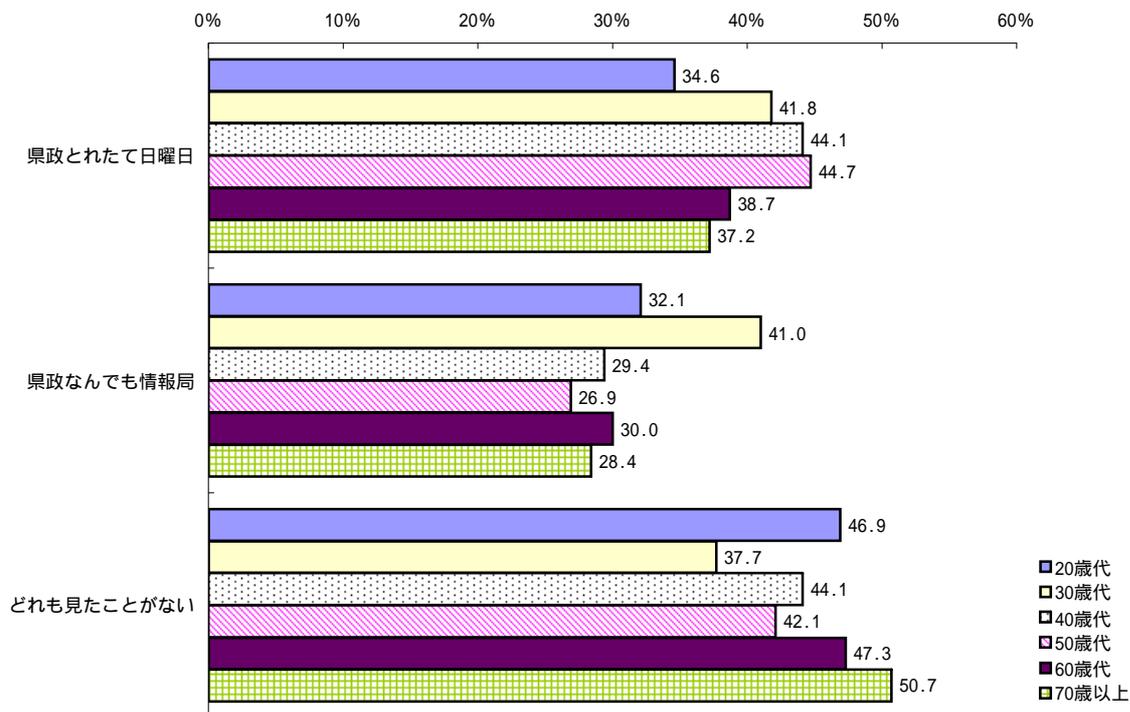
- | | | |
|---|---------------------------------|------|
| 1 | 放送されていることを知らなかった | 49.2 |
| 2 | 仕事の都合などで、現在の放送時間では見る
ことができない | 27.9 |
| 3 | 広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気
がしない | 13.3 |
| 4 | その他 | 9.6 |

県のテレビ広報番組のうちで、見たことがあるものを聞いたところ、「県政とれたて日曜日」は40.8%、「県政なんでも情報局」が30.7%となっている。
また、「どれも見たことがない」は44.7%となっている。



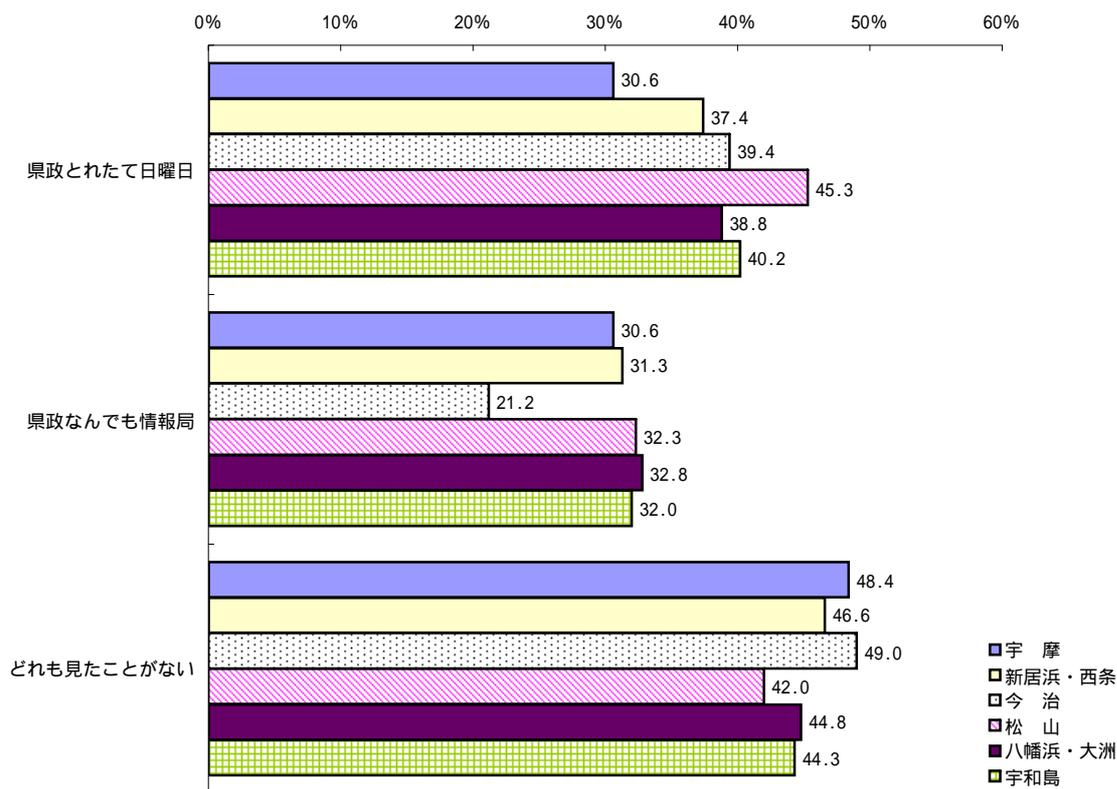
【年齢別】

年齢別にみると、「県政とれたて日曜日」は50歳代、「県政なんでも情報局」は30歳代で割合が高くなっている。
 また、「どれも見たことがない」と答えた人の割合は、70歳以上（50.7%）、60歳代（47.3%）で高くなっている。



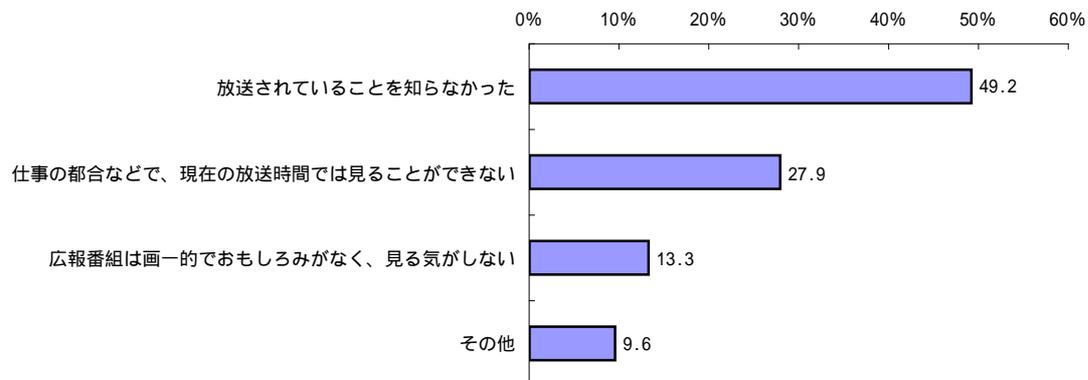
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「県政とれたて日曜日」と答えた人の割合は松山圏域で、「県政なんでも情報局」は八幡浜・大洲圏域で最も高くなっている。
 また、「どれも見たことがない」と答えた人の割合は、今治圏域（49.0%）で高くなっている。



《見たことがない理由》

県のテレビ広報番組を「どれも見たことがない」と答えた人に、その理由を聞くと、「放送されていることを知らなかった」(49.2%)や「仕事の都合などで、現在の放送時間では見るできない」(27.9%)と答えた人の割合が高くなっている。



問16 ラジオ広報番組の聴取経験

では、次にあげる県のラジオ広報番組であなたがお聞きになったことがあるものをいくつか選んで番号を で囲んでください。

(複数回答) (%)

- | | | |
|---|---------------------------------------|------|
| 1 | 県政FM情報 (FM愛媛)
毎週月～金曜日 11:54～11:55 | 6.7 |
| 2 | 県政広場 (FM愛媛)
毎月最終日曜日 8:00～8:30 | 3.0 |
| 3 | 週刊さわやか愛媛 (南海放送ラジオ)
毎週日曜日 9:45～9:55 | 9.6 |
| 4 | どれも聞いたことがない | 84.6 |

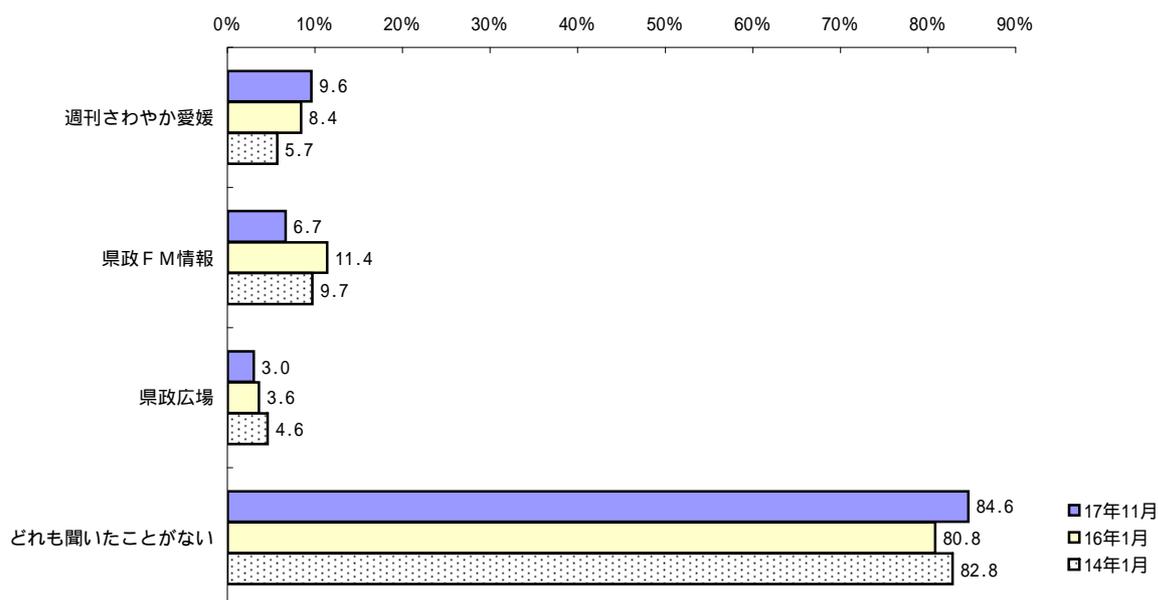


聞いたことがない主な理由を次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

(N = 696) (%)

- | | | |
|---|-----------------------------|------|
| 1 | 放送されていることを知らなかった | 46.1 |
| 2 | 仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない | 19.3 |
| 3 | 広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない | 4.6 |
| 4 | その他 | 30.0 |

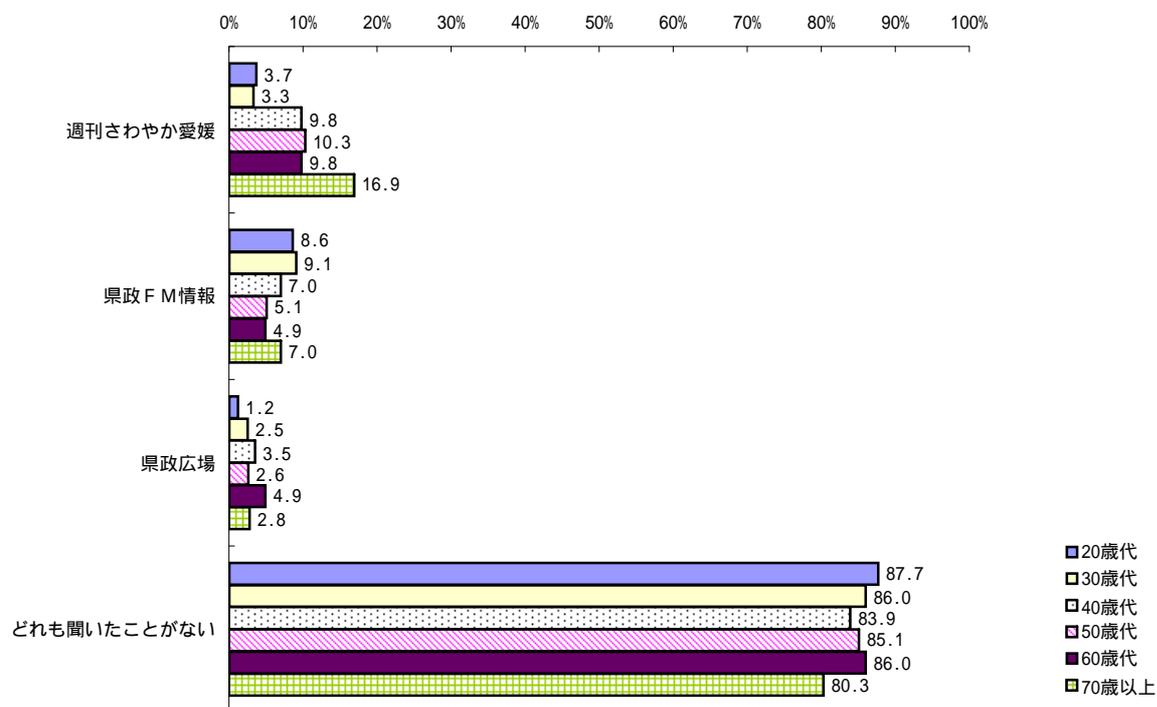
県のラジオ広報番組のうちで、聞いたことがあるものについて聞いたところ、「週刊さわやか愛媛」が9.6%、「県政FM情報」が6.7%、「県政広場」が3.0%となっている。



「週刊さわやか愛媛」のH14の数値は、「ラジオ・Ehimail」の数値。

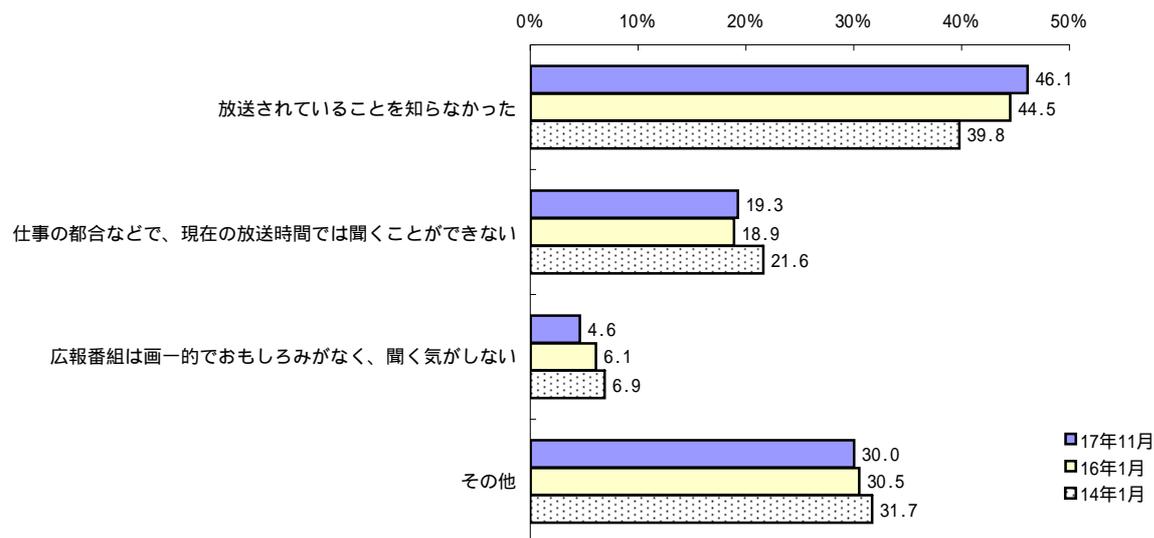
【年齢別】

年齢別にみると、「週刊さわやか愛媛」を聞いたことがあると答えた人の割合は70歳以上で、「県政FM情報」は20歳代、30歳代で、「県政広場」は60歳代で高くなっている。



《聞いたことがない理由》

県のラジオ広報番組を「どれも聞いたことがない」と答えた人に、その理由を聞いたところ、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が46.1%で特に高く、次いで「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」（19.3%）となっている。



問17 県民だよりの周知度

県では、県政の様々な情報を県民の皆さんにお知らせするため、毎月1日、県民だよりに「さわやか愛媛」を発行し、新聞折り込みで各ご家庭に直接お届けしています。

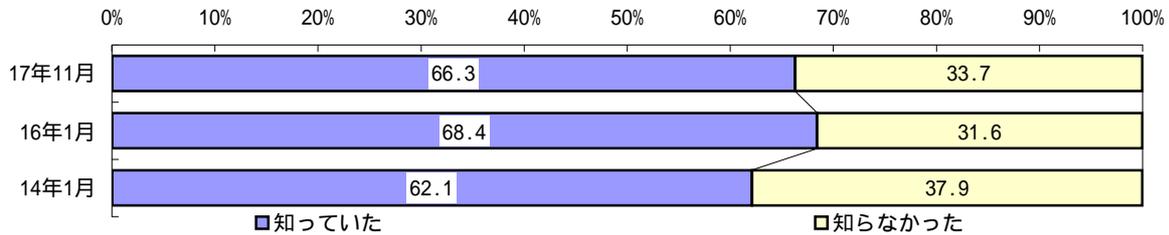
あなたは、この県民だよりをご存じでしたか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

- | | | (%) |
|---|--------|-------|
| 1 | 知っていた | 66.3 |
| 2 | 知らなかった | 33.7 |

それでは、あなたは、この県民だよりをどの程度読んでいますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

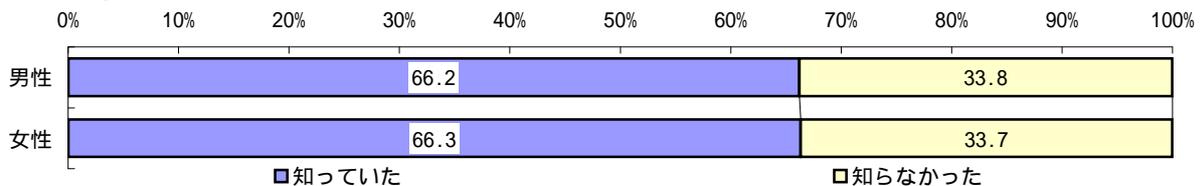
- | | | (%) |
|---|-------------------|-------|
| 1 | 全体をよく読んでいる | 18.0 |
| 2 | 興味のあるところを選んで読んでいる | 55.3 |
| 3 | 見出し程度しか読まない | 16.8 |
| 4 | ほとんど読むことはない | 7.9 |
| 5 | まったく読まない | 2.0 |

県民だよりに「さわやか愛媛」を知っているかどうかを聞いたところ、「知っていた」と答えた人の割合は66.3%となっており、前回調査に比べ2.1ポイント減少している。



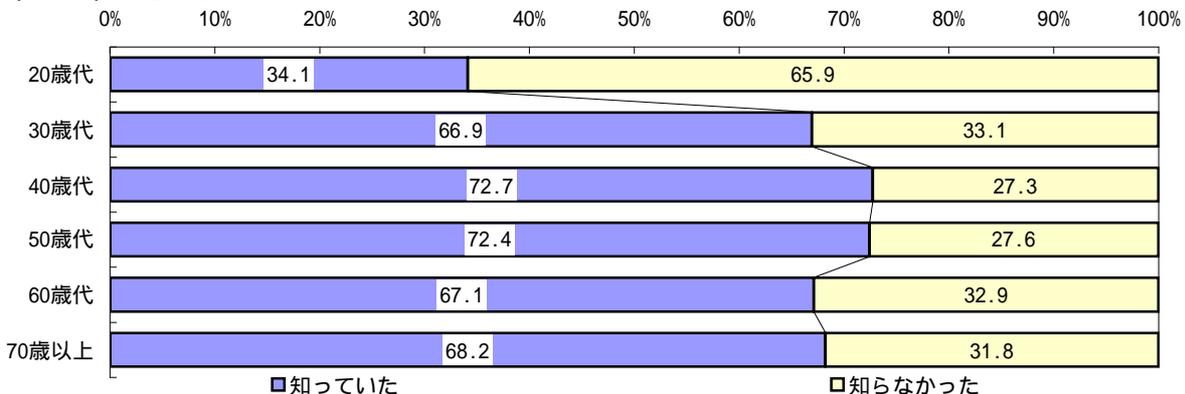
【性別】

性別にみると、県民だよりを「知っていた」と答えた人の割合は、男性66.2%、女性66.3%で同程度となっている。



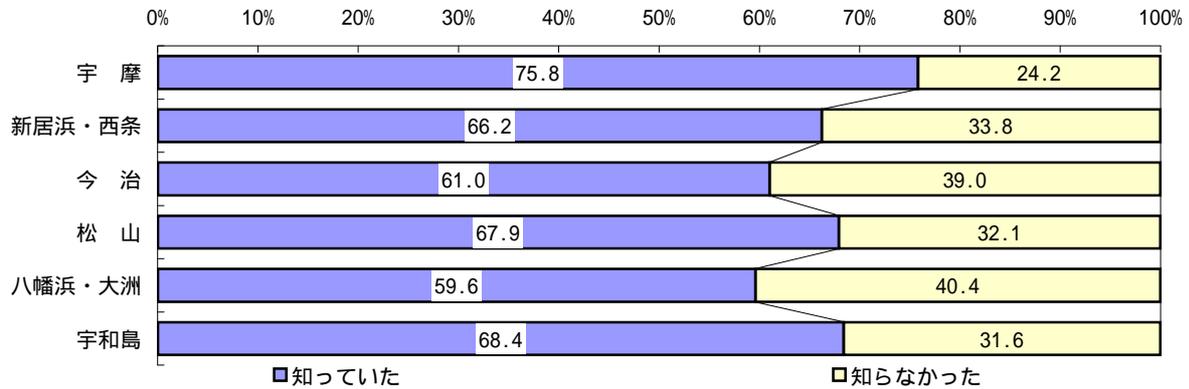
【年齢別】

年齢別にみると、県民だよりを「知っていた」と答えた人の割合は、40歳代（72.7%）で最も高く、20歳代（34.1%）で特に低くなっている。



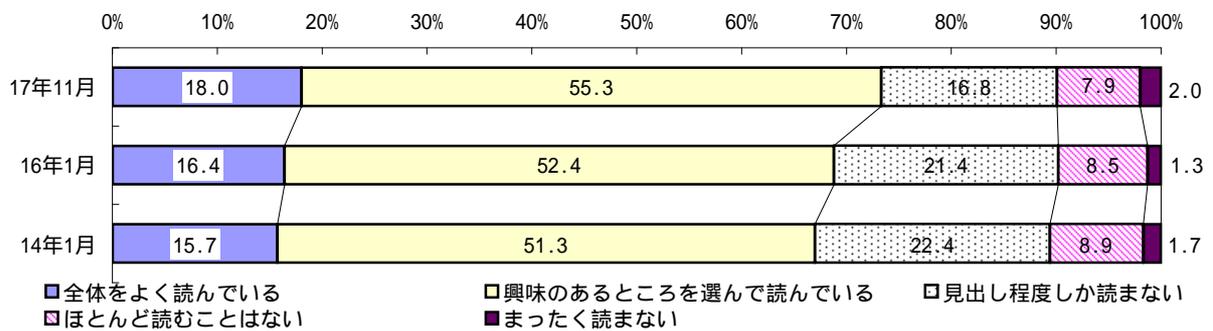
【生活圏域別】

生活圏域別にみると、県民だよりを「知っていた」と答えた人の割合は、宇摩圏域（75.8%）で最も高く、八幡浜・大洲圏域（59.6%）で最も低くなっている。



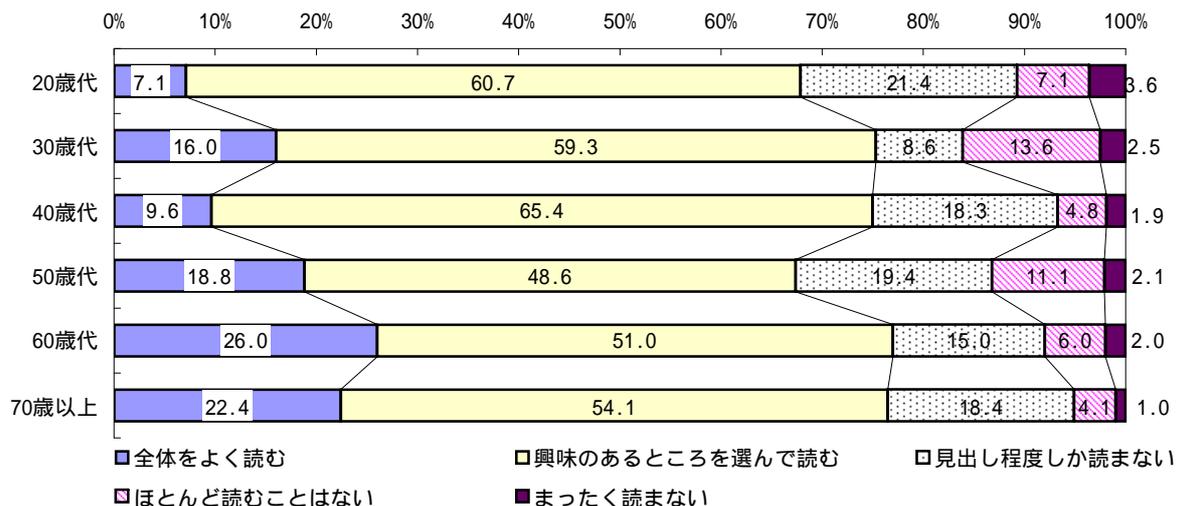
《県民だよりへの関心度》

県民だよりを「知っていた」と答えた人に、どの程度読んでいるかを聞いたところ、「全体をよく読んでいる」と答えた人の割合が18.0%、「興味のあるところを選んで読んでいる」と答えた人の割合が55.3%となっており、県民だよりを知っている人の7割以上は関心を持って利用していることがうかがえる。



【年齢別】

年齢別にみると、「全体をよく読んでいる」と答えた人の割合は60歳代で、「興味のあるところを選んで読んでいる」は40歳代で最も高く、「読んでいる」（「全体をよく読んでいる」、「興味のあるところを選んで読んでいる」）人の割合は、50歳代で最も低くなっている。



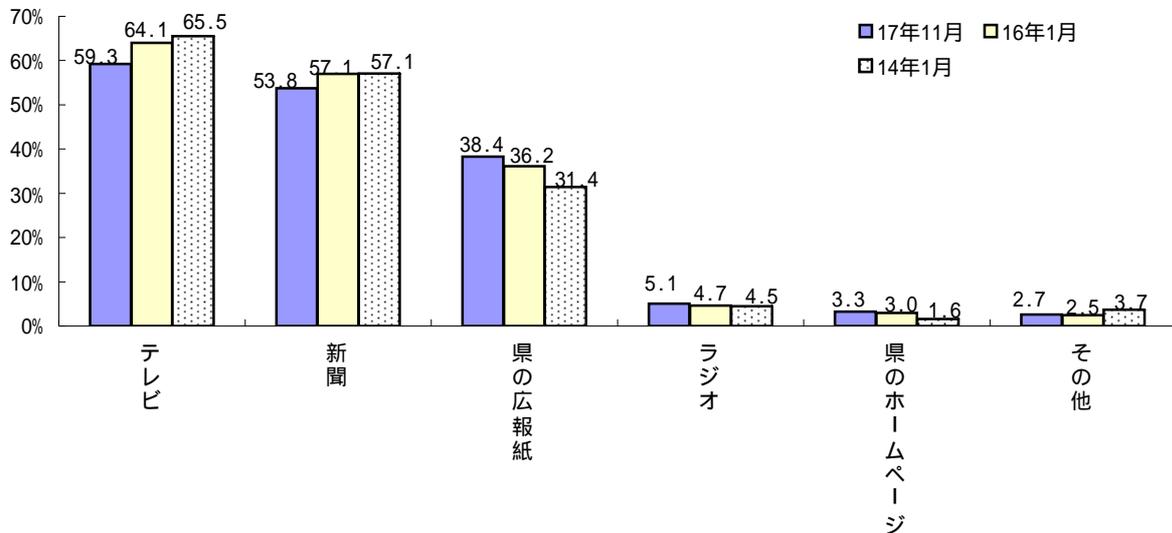
問18 県政情報の情報源

あなたは、県の仕事や内容を主に何によって知ることが多いですか。次の中から二つまで選んで番号を で囲んでください。

(複数回答) (%)

1 県の広報紙	38.4
2 新聞	53.8
3 テレビ	59.3
4 ラジオ	5.1
5 県のホームページ(インターネット)	3.3
6 その他	2.7

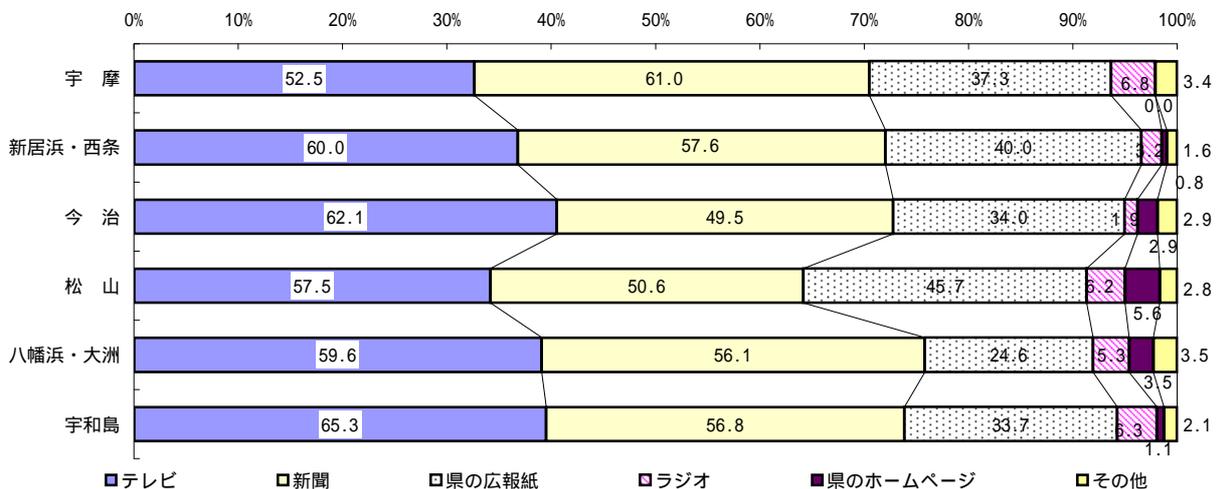
県の仕事や内容をおもに何によって知ることが多いかを聞いたところ、「テレビ」と答えた人の割合が59.3%と最も高く、次いで「新聞」(53.8%)となっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域を除く全ての圏域で「テレビ」と答えた人の割合が最も高くなっている。

また、「県の広報紙」と答えた人の割合は、松山圏域で最も高くなっている。



問19 県政について知りたい情報

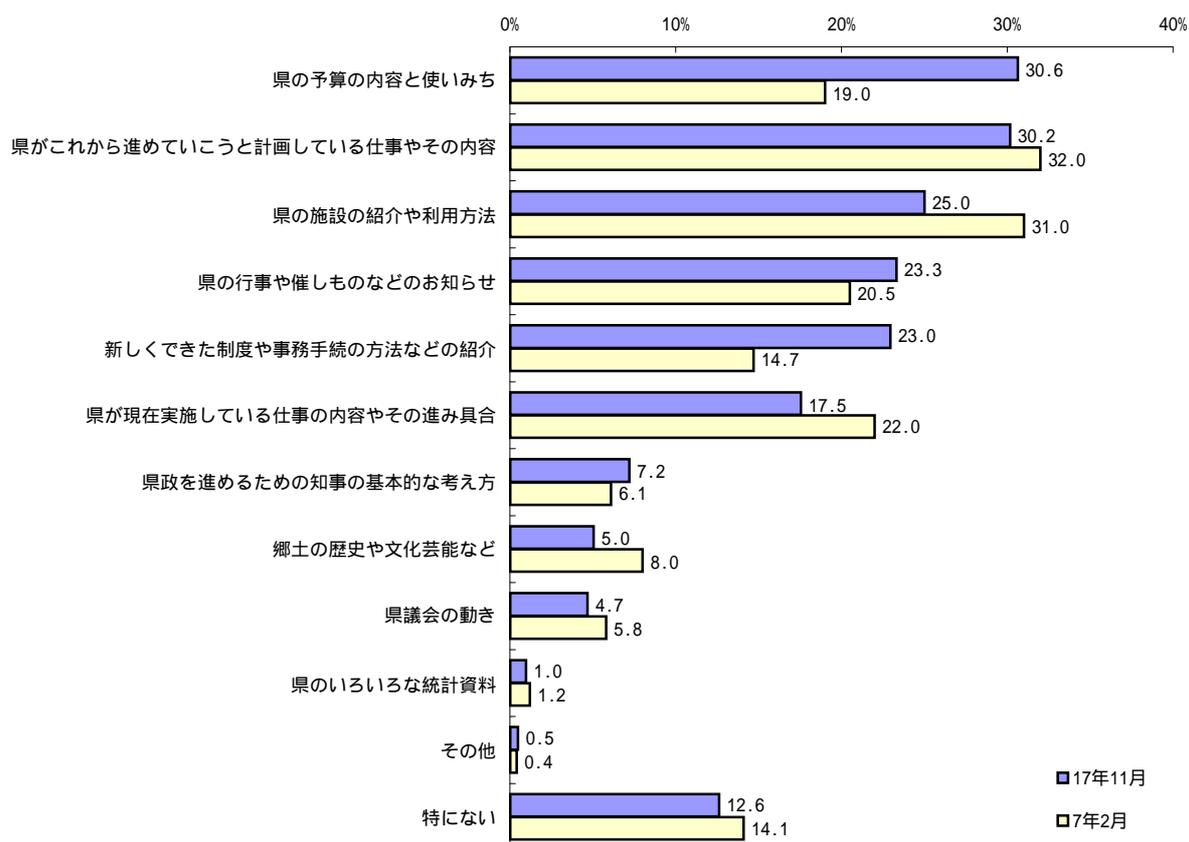
あなたが、県政について日ごろから特に知りたいと思っていることはどのようなことですか。次の中から二つまで選んで番号を で囲んでください。

(複数回答) (%)

1 県議会の動き	4.7
2 県の予算の内容と使いみち	30.6
3 県が現在実施している仕事の内容やその進み具合	17.5
4 新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介	23.0
5 県の施設の紹介や利用方法	25.0
6 県の行事や催しものなどのお知らせ	23.3
7 郷土の歴史や文化芸能など	5.0
8 県のいろいろな統計資料	1.0
9 県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容	30.2
10 県政を進めるための知事の基本的な考え方	7.2
11 その他	0.5
12 特にない	12.6

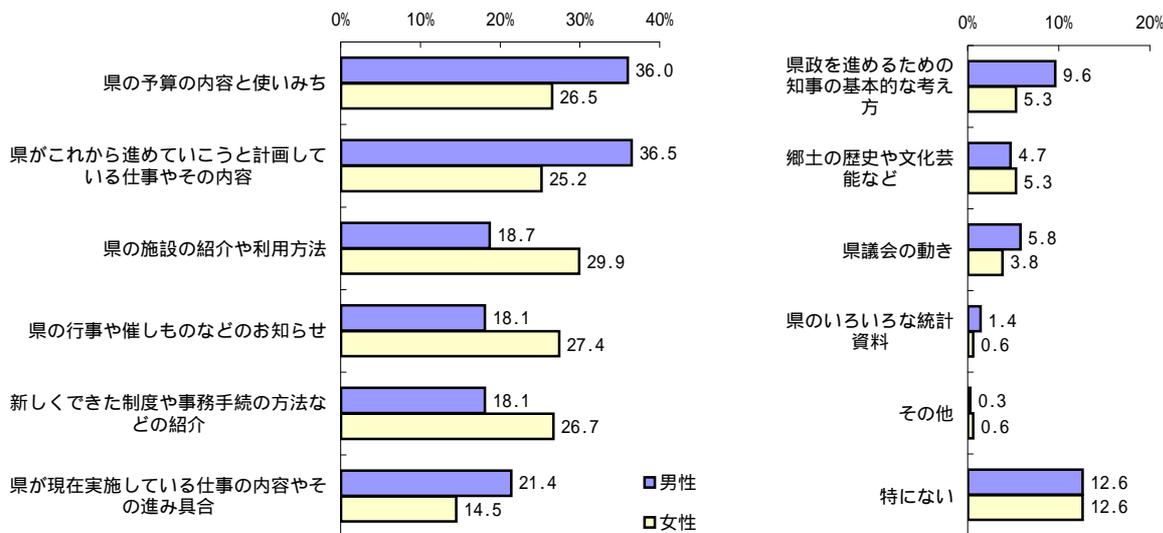
県政について、日ごろから特に知りたいと思っていることを聞いたところ、「県の予算の内容と使いみち」と答えた人の割合が30.6%と最も高く、以下「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」(30.2%)、「県の施設の紹介や利用方法」(25.0%)、「県の行事や催しものなどのお知らせ」(23.3%)、「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」(23.0%)などの順となっている。

10年前の調査と比べ、「県の予算の内容と使いみち」「県の行事や催しものなどのお知らせ」「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」と答えた人の割合が増加している。



【性別】

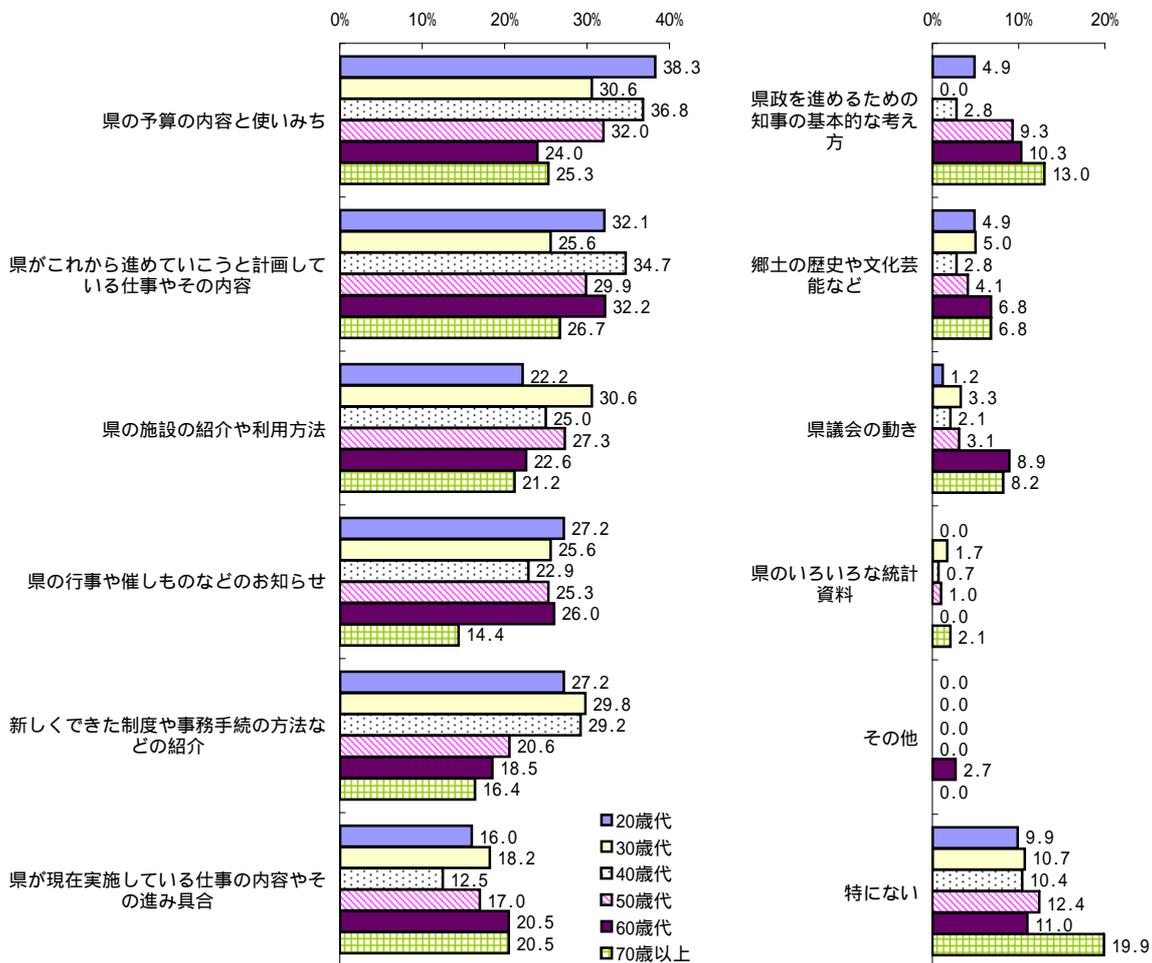
性別にみると、「県の予算の内容と使いみち」、「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」、「県が現在実施している仕事の内容やその進み具合」、「県政を進めるための知事の基本的な考え方」、「県議会の動き」と答えた人の割合は男性で、「県の施設の紹介や利用方法」、「県の行事や催し物などのお知らせ」、「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」、「郷土の歴史や文化芸能など」は女性で高くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、「県の予算の内容と使いみち」と答えた人の割合は20歳代で、「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」は40歳代で、「県の施設の紹介や利用方法」は30歳代で最も高くなっている。

なお、「特になし」と答えた人は、70歳以上で高くなっている。



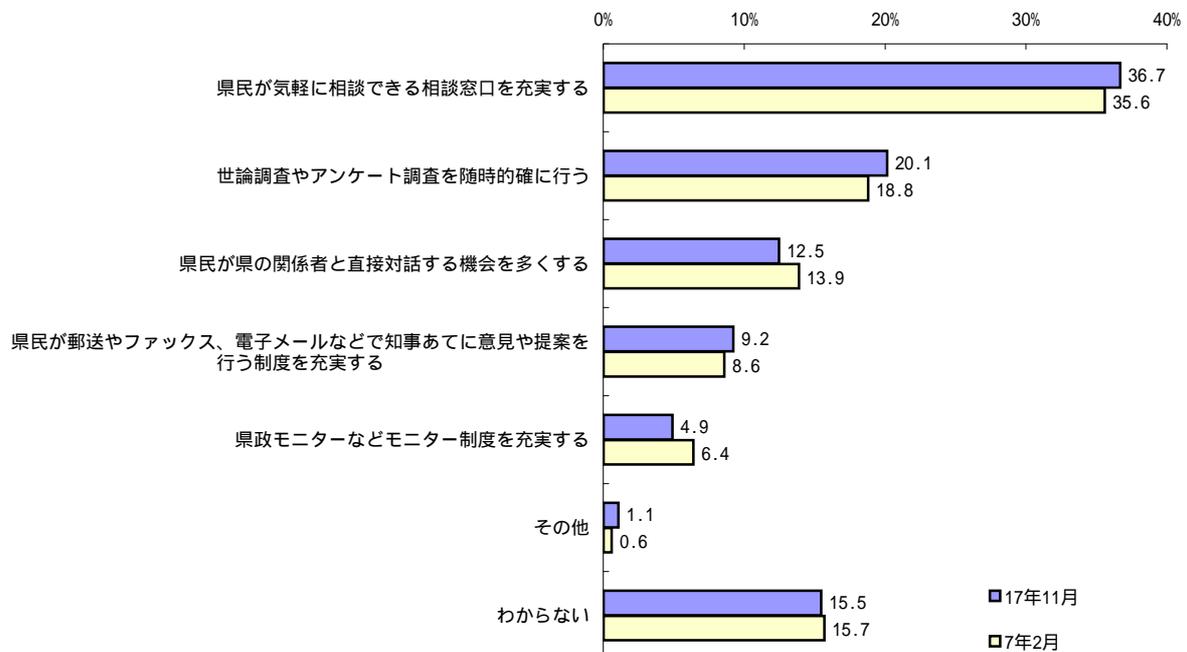
問20 県民の声を県政に反映させる手段

あなたが、県民の意見や要望を県政に反映させる手段として、最も良いと思われるものは何ですか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(%)
1 世論調査やアンケート調査を随時的確に行う	20.1
2 県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする	12.5
3 県政モニターなどモニター制度を充実する	4.9
4 県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する	9.2
5 県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する	36.7
6 その他	1.1
7 わからない	15.5

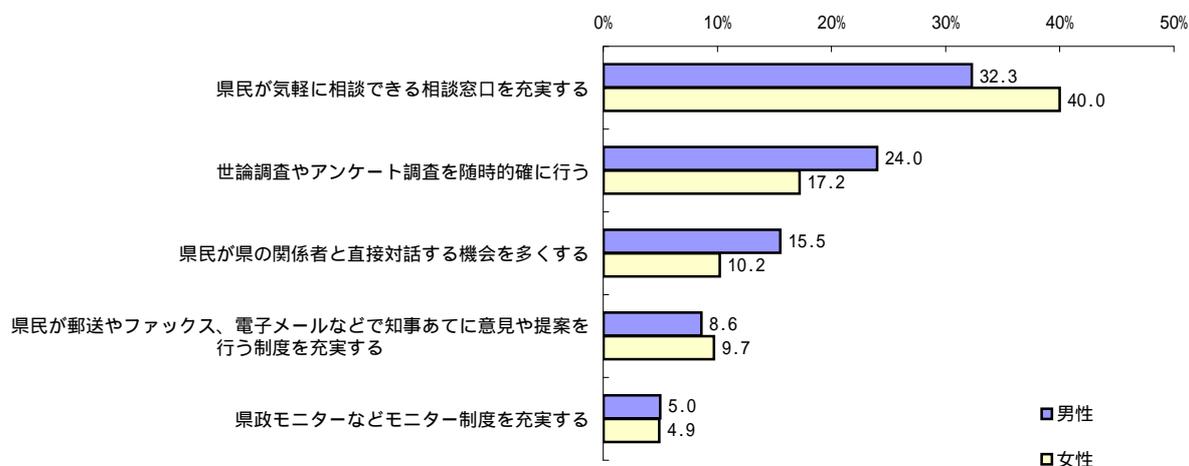
県民の意見や要望を県政に反映させる手段として、最も有効と思われる方法を聞いたところ、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が36.7%と最も高く、以下「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」(20.1%)、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」(12.5%)、「県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する」(9.2%)などの順となっている。

10年前の調査と比べると、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」「県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する」と答えた人の割合が増加し、それ以外は減少している。



【性別】

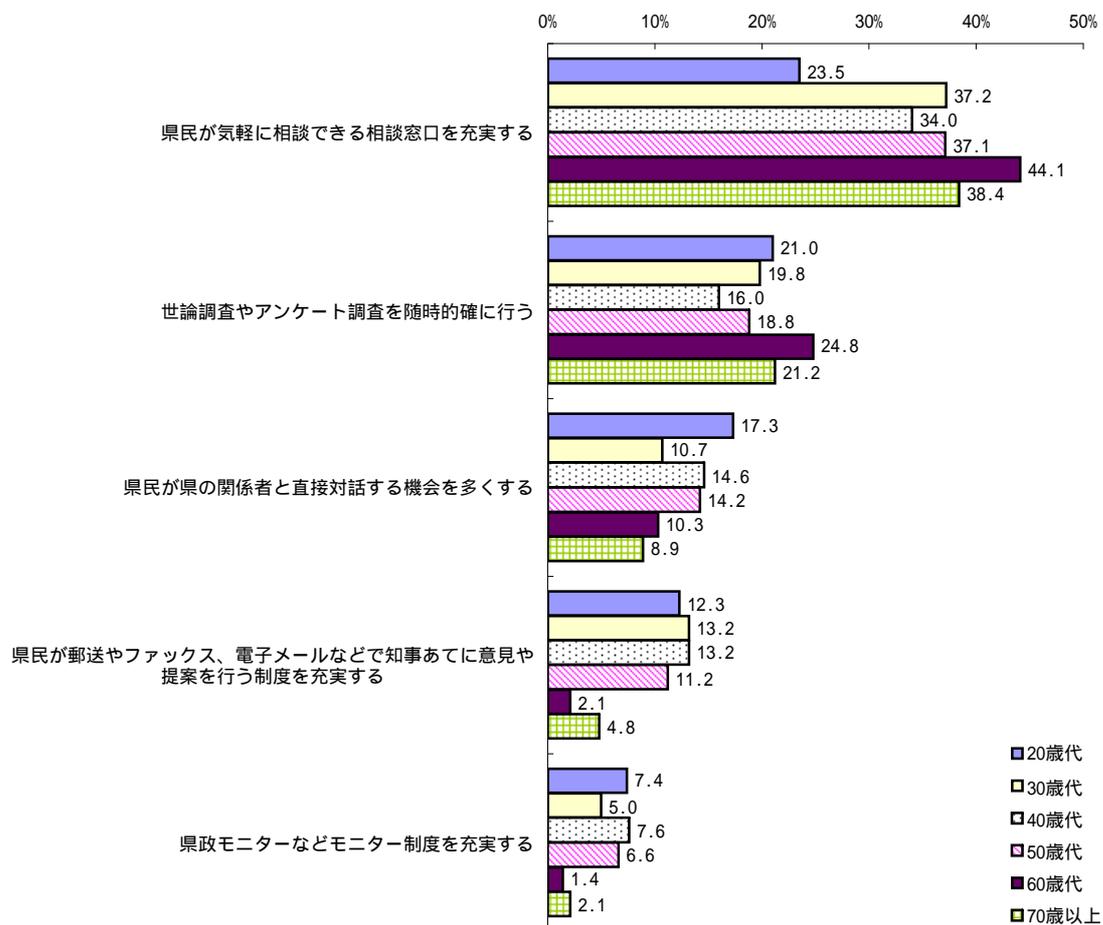
性別にみると、男性、女性ともに「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」（男性32.3%、女性40.0%）と答えた人の割合が最も高くなっている。また、「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」と答えた人の割合は男性で高くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が高くなっており、中でも60歳代で44.1%と最も高くなっている。

また、「世論調査やアンケートを行う」は60歳代(24.8%)で、「県民と県の関係者との対話機会を増やす」は20歳代(17.3%)で、「知事あてに意見や提案を行う制度を充実する」は30歳代、40歳代(ともに13.2%)で、「モニター制度の充実」は40歳代(7.6%)でそれぞれ高くなっている。



問21 県民の声の伝達方法

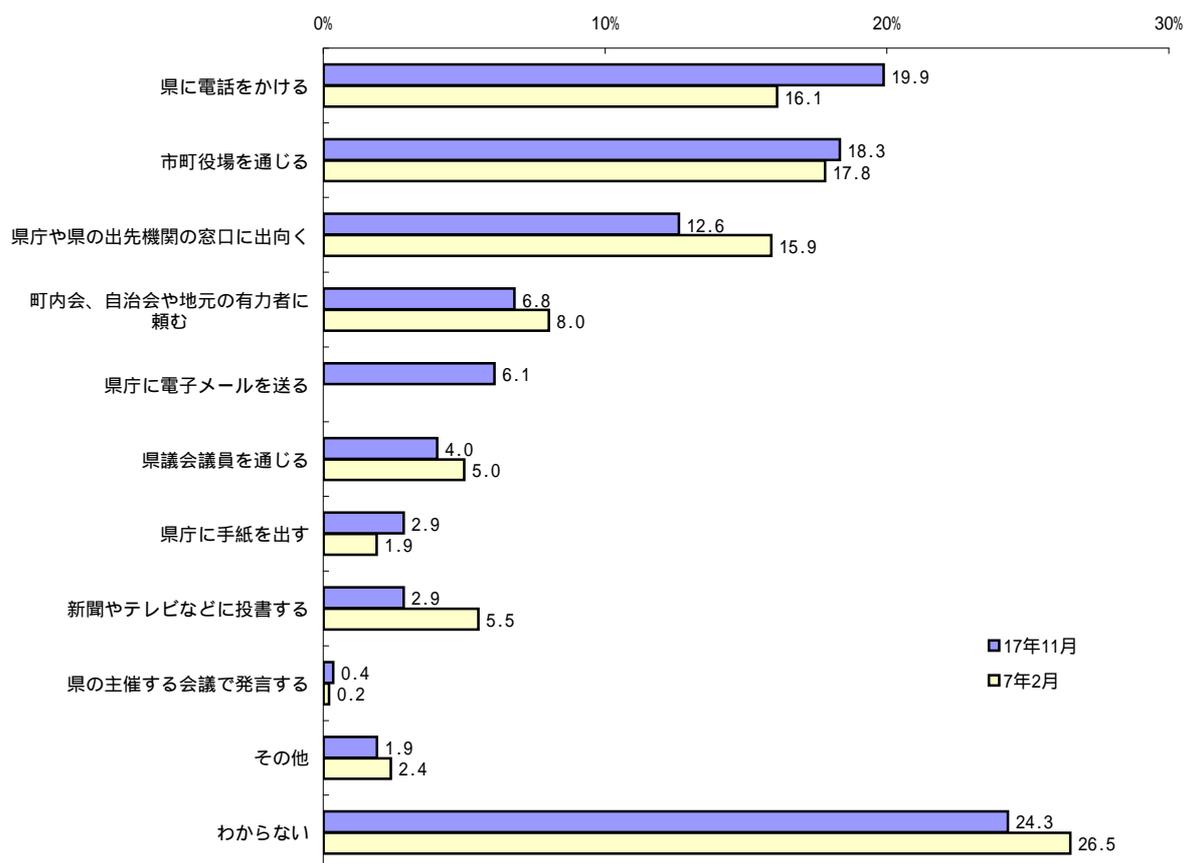
あなたは、県に意見、要望、苦情を伝えたいとき、どのような方法をとられますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(%)
1 県庁や県の出先機関の窓口に出向く	12.6
2 県庁に手紙を出す	2.9
3 県庁に電子メールを送る	6.1
4 県に電話をかける	19.9
5 県の主催する会議で発言する	0.4
6 市町役場を通じる	18.3
7 町内会、自治会や地元の有力者に頼む	6.8
8 県議会議員を通じる	4.0
9 新聞やテレビなどに投書する	2.9
10 その他	1.9
11 わからない	24.3

県に意見や要望、苦情を伝えたいとき、どのような方法をとるか聞いたところ、「県に電話をかける」と答えた人の割合が19.9%と最も高く、以下「市町役場を通じる」(18.3%)、「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」(12.6%)などの順となっている。

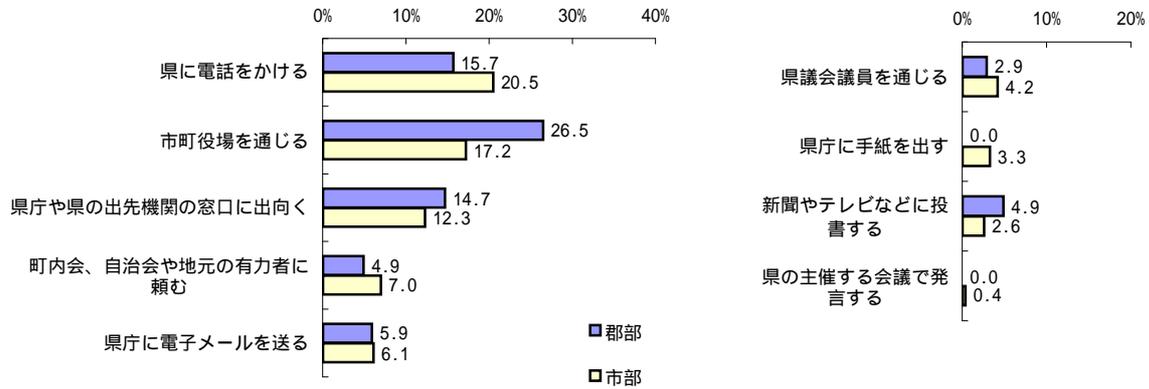
また、「わからない」と答えた人の割合は24.3%であった。

10年前の調査と比較すると、「県に電話をかける」「市町(村)役場を通じる」「県庁に手紙を出す」「県の主催する会議で発言する」と答えた人の割合は増加し、それ以外は減少している。



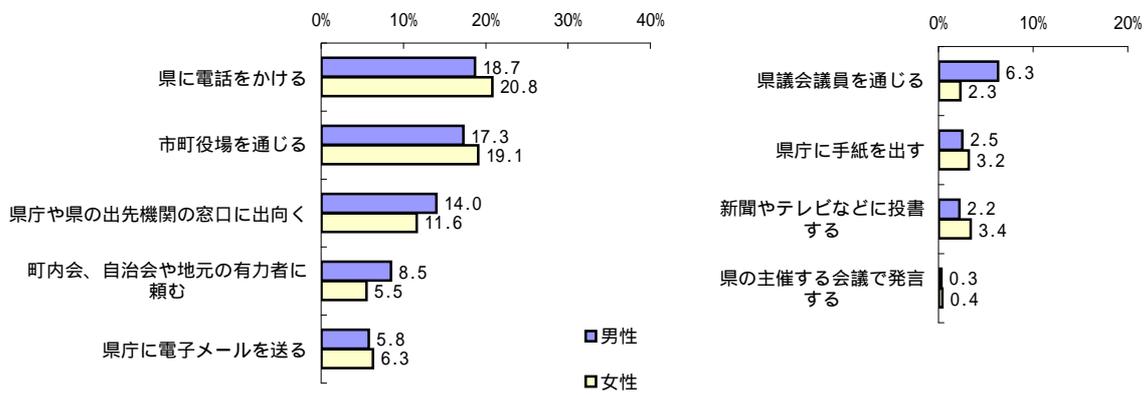
【市郡別】

市郡別にみると、「市町役場を通じる」、「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」と答えた人の割合は郡部で高く、「県に電話をかける」は市部で高くなっている。



【性別】

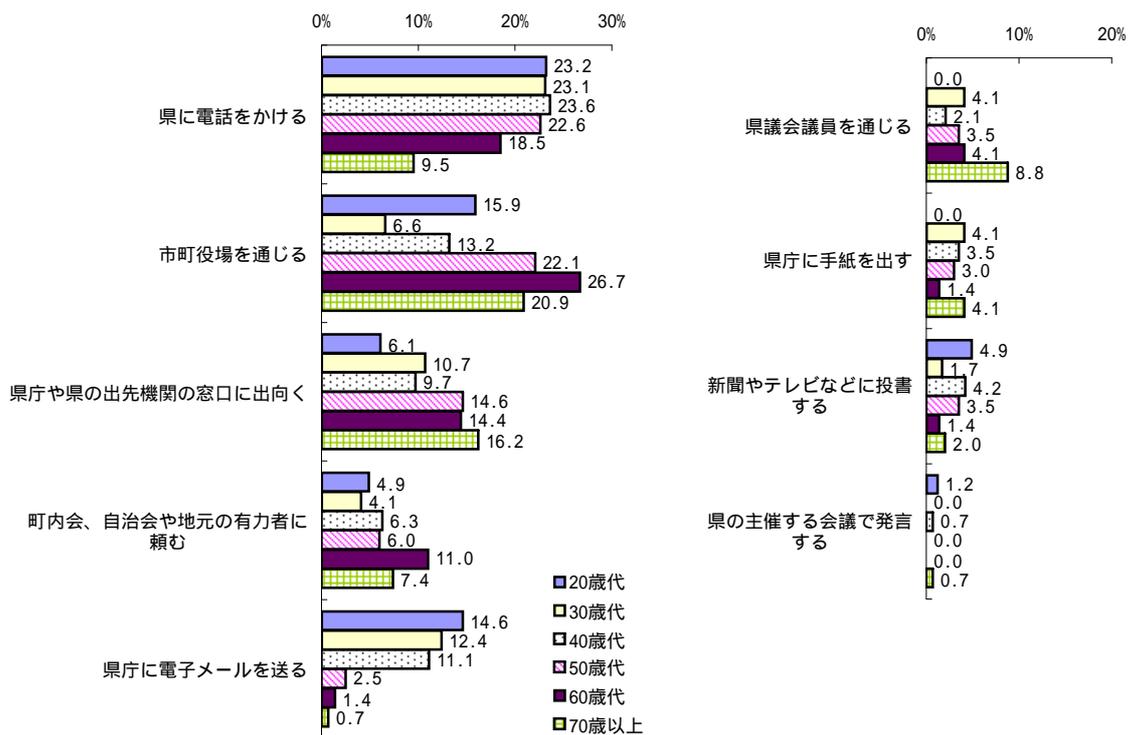
性別にみると、「県に電話をかける」、「市町役場を通じる」は女性で、「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」、「地元の有力者に頼む」と答えた人の割合は男性でそれぞれ高くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、60歳代、70歳以上では「市町役場を通じる」と答えた人の割合が最も高く、その他の年齢層では「県に電話をかける」が最も高くなっている。

また、「県庁に電子メールを送る」と答えた人の割合は、20歳代で他の年齢層に比べ高くなっている。



【職業別】

職業別にみると、農林漁業、自営業、主婦では「市町役場を通じる」と答えた人の割合が最も高く、勤め人では「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も高くなっている。

